


第3章 上川地域の地域特性・現況

本計画を策定するにあたり、考慮すべき地域特性や地域の現況について整理する。

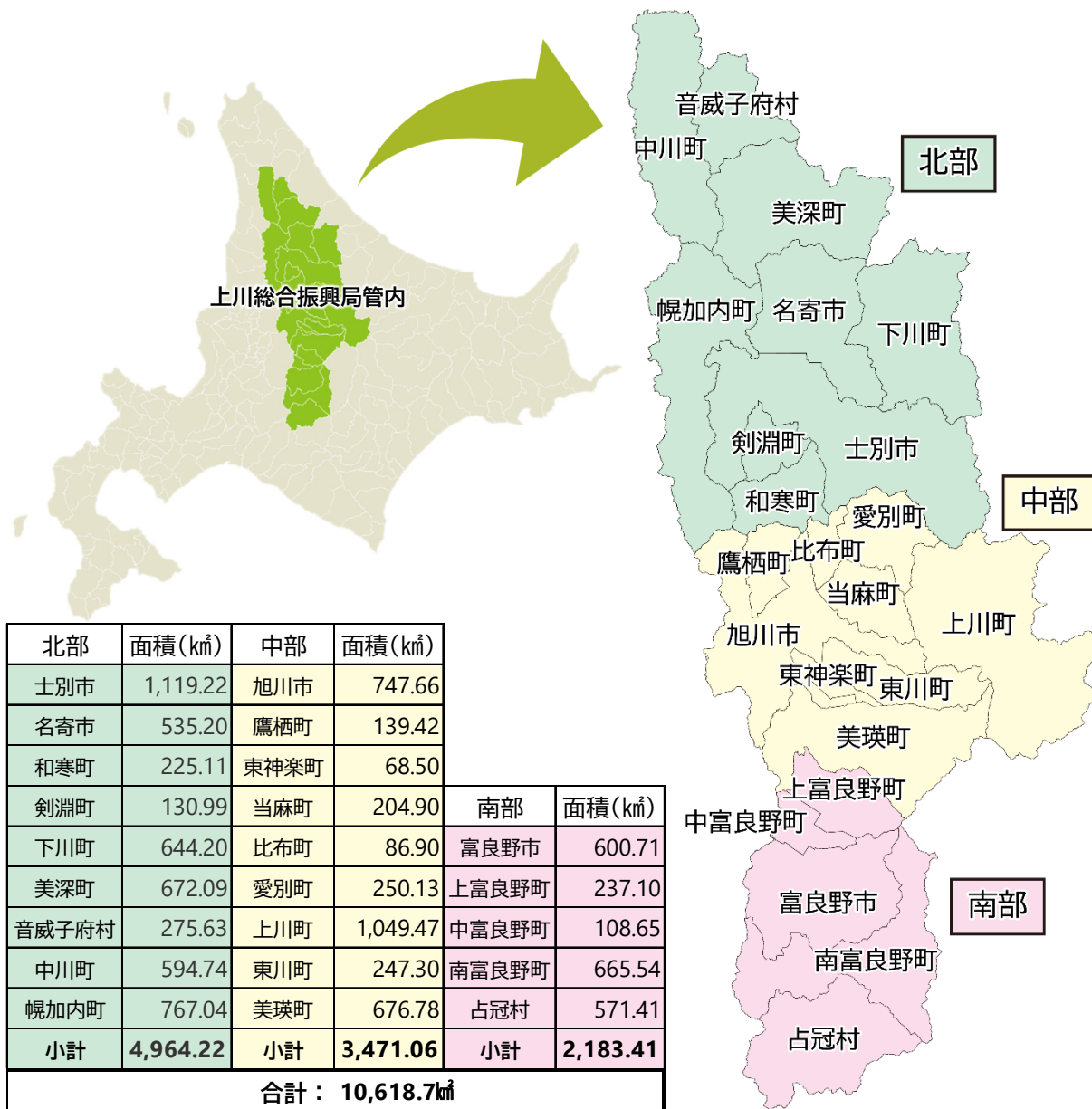
- 
- | 3-1 | 地域の概要
 - | 3-2 | 人口
 - | 3-3 | 通勤・通学の状況
 - | 3-4 | 生活機能施設の分布
 - | 3-5 | 観光
 - | 3-6 | 交通行動
 - | 3-7 | 地域特性・現況からみえる課題

3-1 | 地域の概要

(1) 上川地域の位置・面積

本地域は北海道のほぼ中央に位置しており、南北に 224.4km、東西に 96.7km と南北に細長い形状である。

総面積は約 10,619 km² で、岐阜県(約 10,622 km²)と同程度の大きさであり、北海道の約 13%を占めている。



出典：国土地理院「令和4年(2022年)全国都道府市区町村別面積調」(4月1日時点)
(<https://www.gsi.go.jp/KOKUJYOHO/MENCHO-title.htm>) をもとに作成

図 3-1 上川地域の各市町村の位置・面積

1 はじめに

2 計画の位置づけ

3 上川地域の地域特性・現況

4 上川地域の移動に関する現況

5 上川地域の公共交通の課題

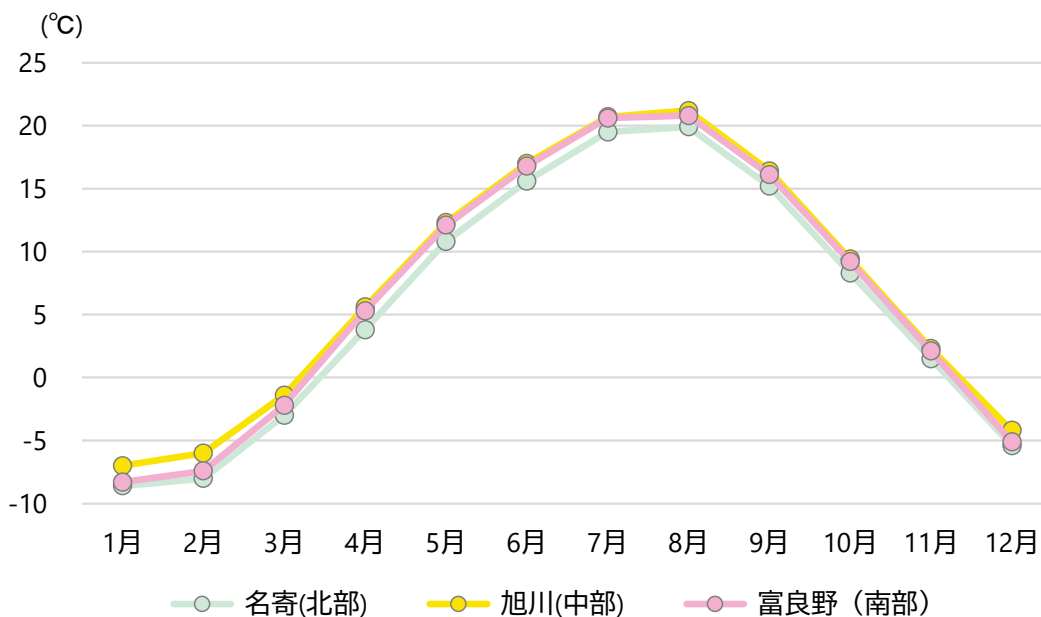
6 計画の将来像及び基本方針・目標

7 目標達成のための施策と目標値設定

8 計画推進に向けた評価体制

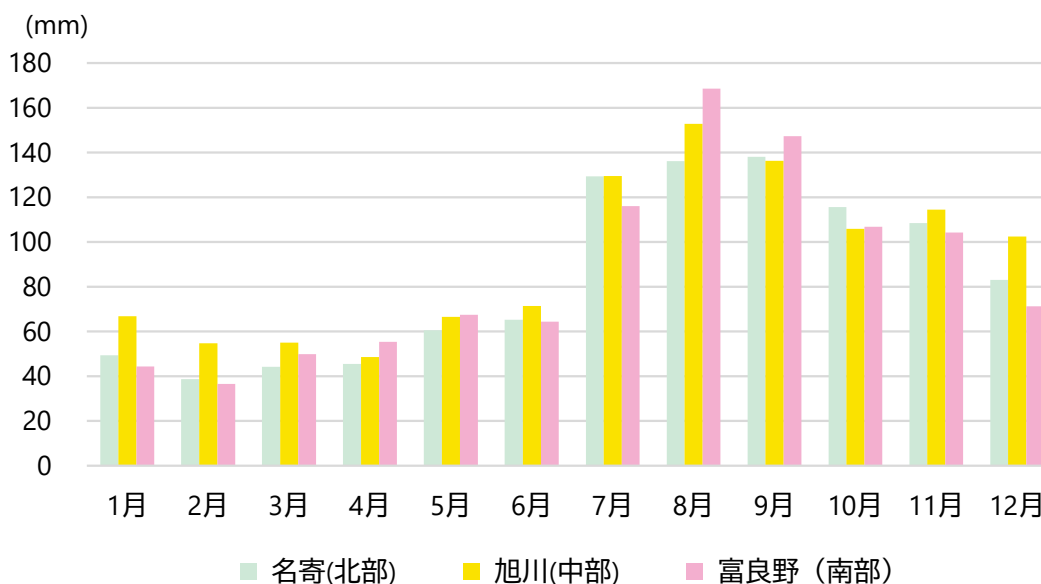
(3) 気候

本地域は北海道の内陸部にあり、周囲を山地に囲まれているため、冬季と夏季の気温の変化が約30℃と大きく、内陸性気候が顕著となっている。また、1～6月は降水量が少ない一方、7～11月は多く、北部・中部・南部の3地区共に平均月間降水量が100mmを上回っている。



出典：気象庁「年・月ごとの平均値」(<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>)をもとに作成

図 3-3 平均気温(過去30年間(平成3年(1991年)-令和2年(2020年))平均)



出典：気象庁「年・月ごとの平均値」(<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>)をもとに作成

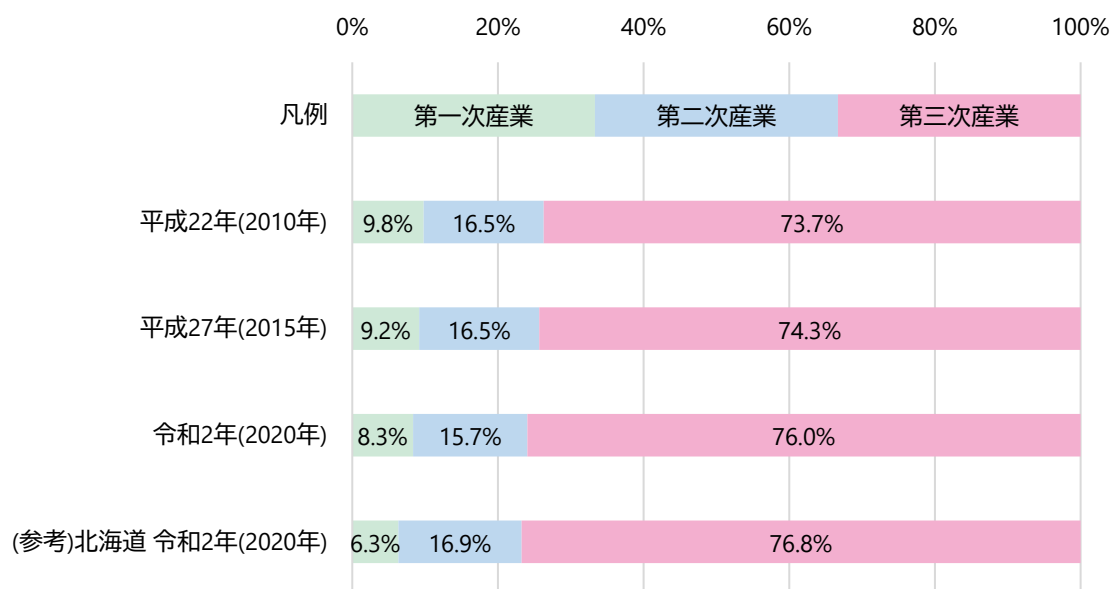
図 3-4 平均月間降水量(過去30年間(平成3年(1991年)-令和2年(2020年))平均)



北海道上川地域公共交通計画

(4) 産業別就業者数

本地域は北海道全体と概ね同一の産業構造となっており、第三次産業の就業者数が多くなっている。

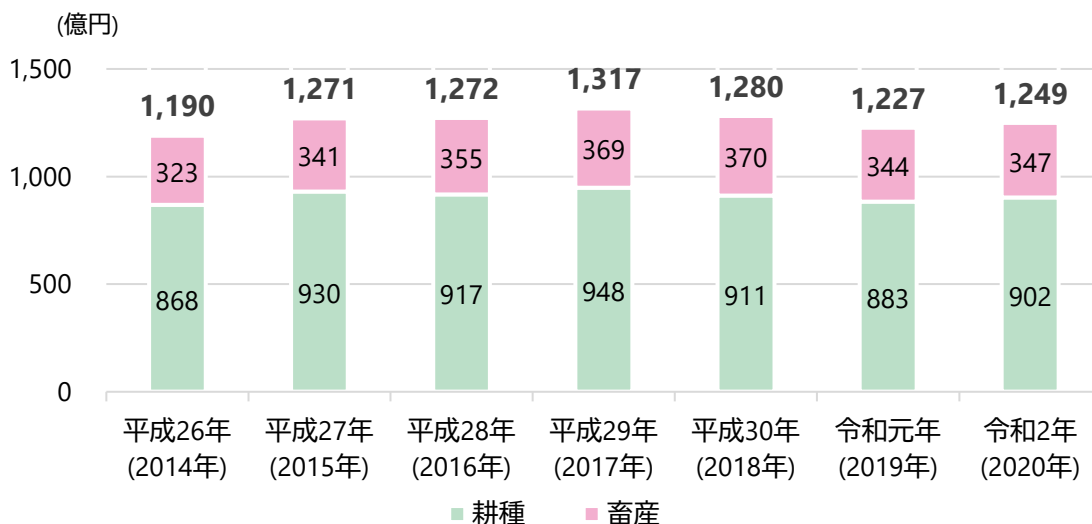


出典：総務省統計局「国勢調査」(平成22年(2010年)、平成27年(2015年)、令和2年(2020年))
(<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>) をもとに作成

図 3-5 産業別就業者数

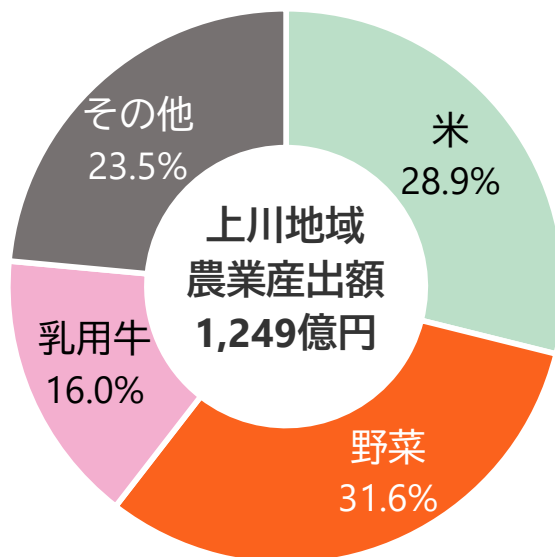
(5) 農業産出額

本地域では令和2年(2020年)時点で農業産出額は1,249億円となっており、毎年1,200億円程度で推移している。また、耕種¹の産出額は毎年900億円程度、畜産の産出額は350億円程度で推移しており、米・野菜中心の耕種農業の方が産出額が多い。



出典：農林水産省「市町村別農業産出額」(平成26年(2014年)から令和2年(2020年))
 (https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sityoson_sansyutu/) をもとに作成

図 3-6 農業産出額の推移



出典：農林水産省「市町村別農業産出額」(令和2年(2020年))
 (https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sityoson_sansyutu/) をもとに作成

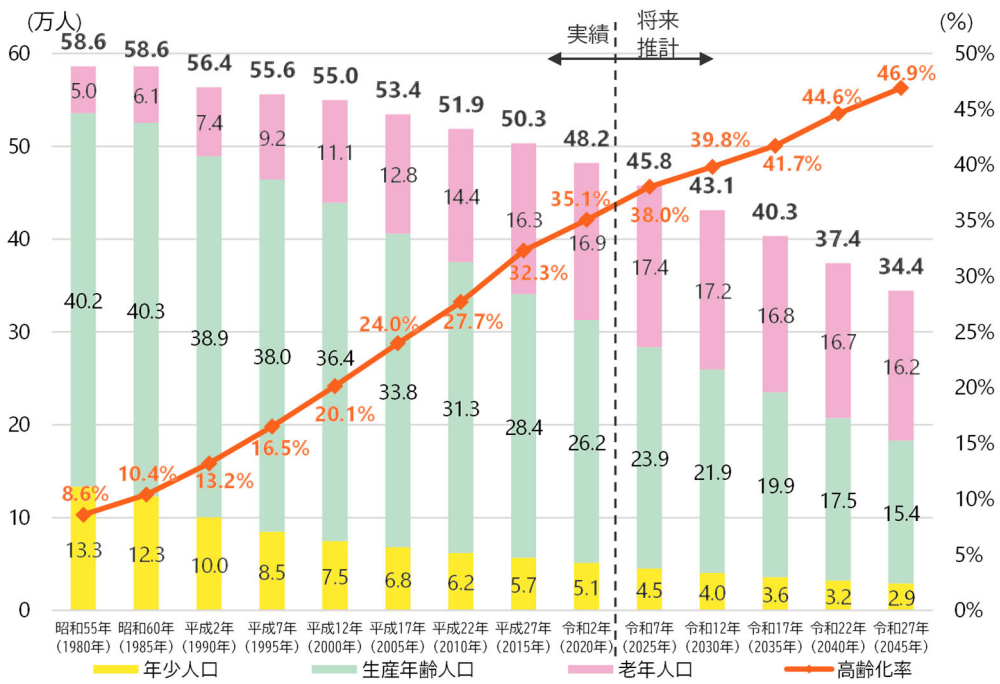
図 3-7 農業産出額の内訳

¹ 水稲、陸稲、麦類、雑穀、豆類、いも類、野菜、果樹、工芸農作物、飼肥料作物、花き、薬用作物、採種用作物、桑の栽培

3-2 | 人口

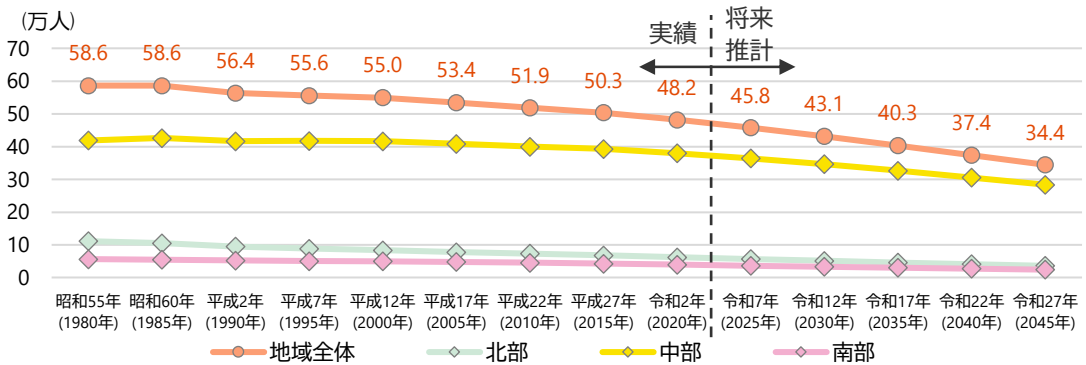
(1) 人口の推移

本地域の総人口は減少傾向で、令和2年(2020年)時点では481,953人となっており、今後も減少が続き、令和27年(2045年)には344,463人まで減少するものと予測されている。減少傾向の継続は北部・中部・南部の各地区で予測される。また、高齢化率は令和2年(2020年)時点で35.1%となっており、令和27年(2045年)には46.9%まで上昇すると予測されている。



出典：総務省統計局「国勢調査」(昭和55年(1980年)から令和2年(2020年)) (<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>)、国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」(平成30年(2018年)推計) (<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/t-page.asp>) をもとに作成

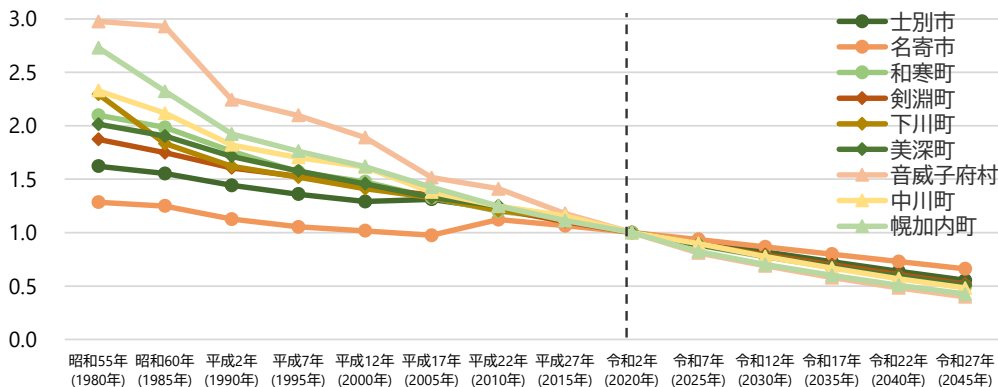
図 3-8 地域全体の人口推移



出典：総務省統計局「国勢調査」(昭和55年(1980年)から令和2年(2020年)) (<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>)、国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」(平成30年(2018年)推計) (<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/t-page.asp>) をもとに作成

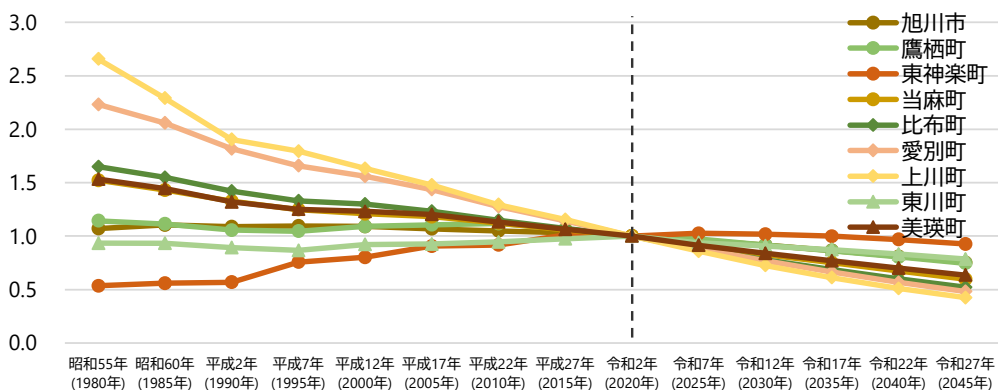
図 3-9 各地区の人口推移

本地域は昭和 55 年（1980 年）から令和 27 年（2045 年）にかけて全市町村の人口が減少傾向にあり、音威子府村、幌加内町、上川町の減少割合が比較的高くなっている。



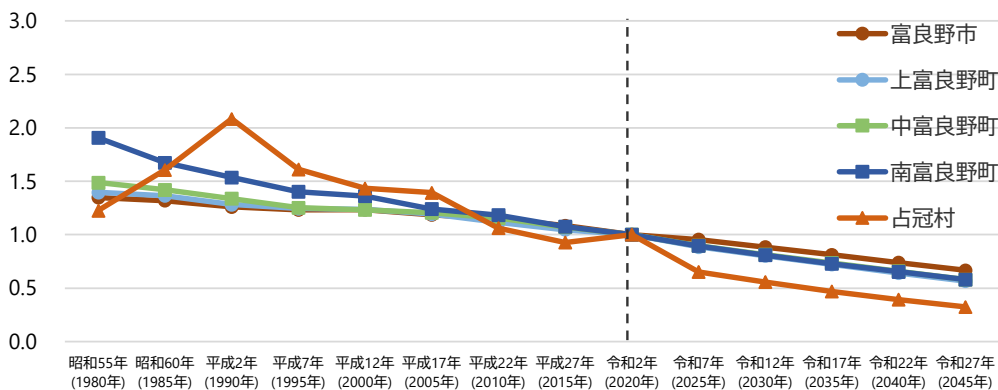
出典：総務省統計局「国勢調査」（昭和 55 年(1980 年)から令和 2 年(2020 年)）
 (<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>)、国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」
 (平成 30 年(2018 年)推計) (<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/t-page.asp>) をもとに作成

図 3-10 北部の市町村毎の人口推移(令和 2 年(2020 年)人口を 1.0 とした場合の比率)



出典：総務省統計局「国勢調査」（昭和 55 年(1980 年)から令和 2 年(2020 年)）
 (<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>)、国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」
 (平成 30 年(2018 年)推計) (<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/t-page.asp>) をもとに作成

図 3-11 中部の市町村毎の人口推移(令和 2 年(2020 年)人口を 1.0 とした場合の比率)



出典：総務省統計局「国勢調査」（昭和 55 年(1980 年)から令和 2 年(2020 年)）
 (<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>)、国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」
 (平成 30 年(2018 年)推計) (<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/t-page.asp>) をもとに作成

図 3-12 南部の市町村毎の人口推移(令和 2 年(2020 年)を 1.0 とした場合の比率)

1 はじめに

2 計画の位置づけ

3 上川地域の地域特性・現況

4 上川地域の移動に関する現況

5 上川地域の公共交通の課題

6 計画の将来像及び基本方針・目標

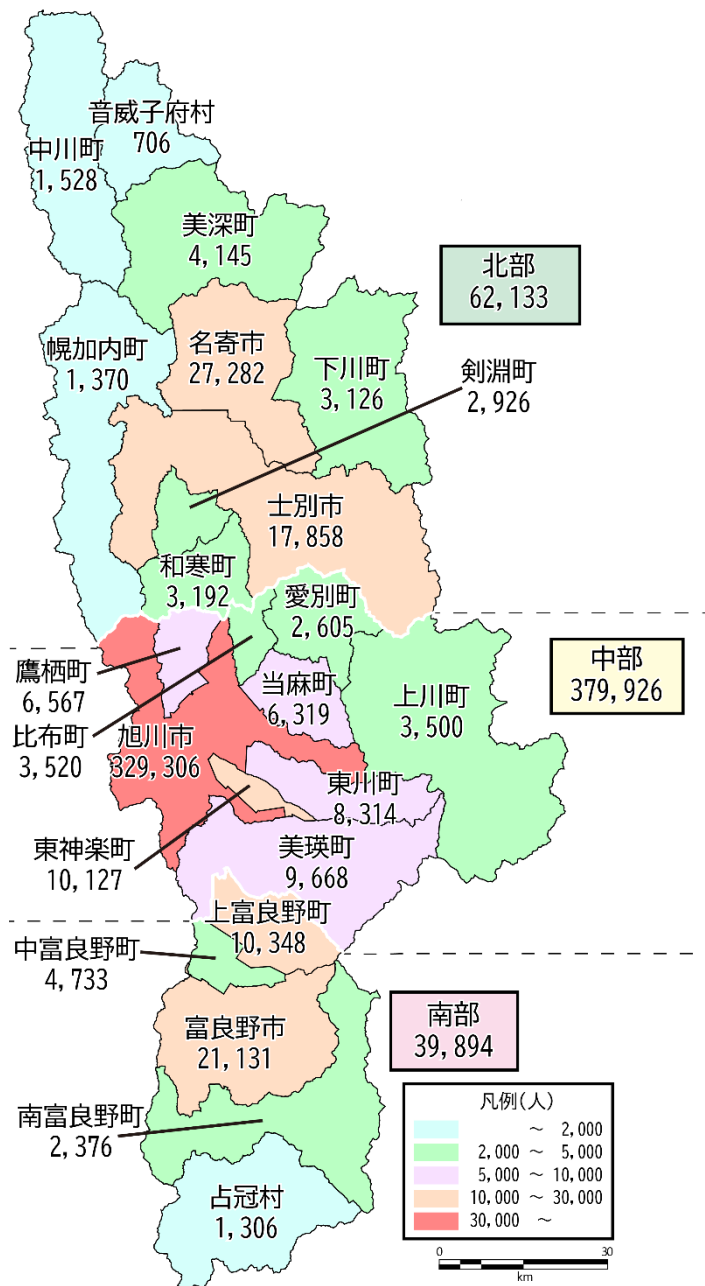
7 目標達成のための施策と目標値設定

8 計画推進に向けた評価体制

北海道上川地域公共交通計画

(2) 人口の分布

本地域の総人口 481,953 人(令和 2 年(2020 年))のうち、中核都市²である旭川市に 329,306 人と 68.3%が集中しているほか、地域中心都市³である名寄市に 27,282 人、富良野市に 21,131 人、士別市に 17,858 人と中核・地域中心都市に 82.1%が集中し、その他の市町村に約 86,000 人が広く分布している。



出典：総務省統計局「国勢調査」(令和 2 年(2020 年)) (<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>) をもとに作成

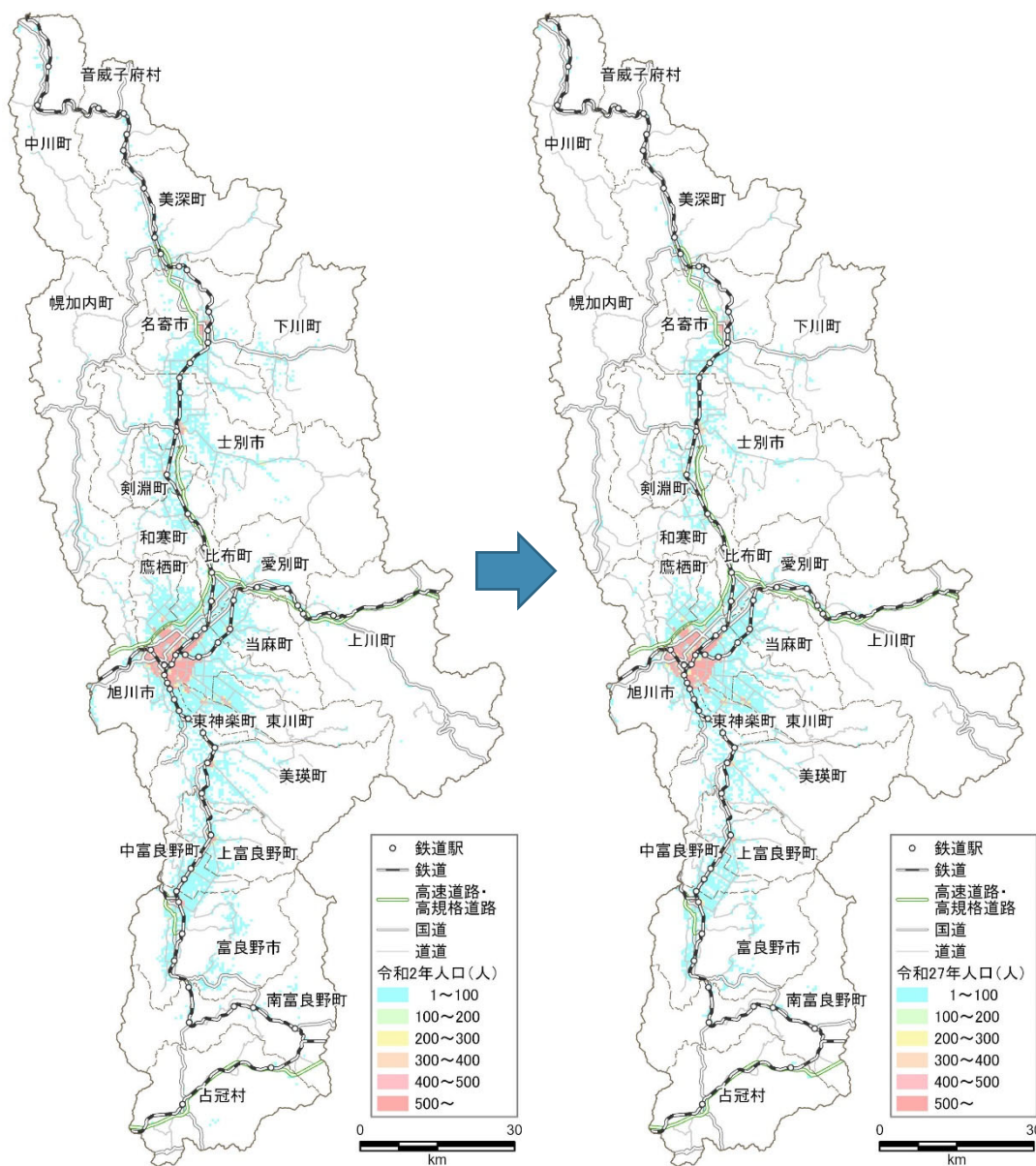
図 3-13 地区・市町村毎の人口

² 地域において相当の規模と中核性を備える圏域の中心都市

³ 生活に必要な都市機能について一定の集積があり、圏域内の周辺自治体に間接的に経済効果を与えている都市

500m メッシュ人口⁴をみると、中核都市である旭川市の市街地に人口が集中しているほか、士別市、名寄市の駅付近にも人口の集中がみられる。また、その他の市町村も鉄道が走っている市町村は鉄道路線沿いに人口が分布している一方、農村部には低密度で広域的に分散している状況がみられる。

また、令和27年(2045年)には全地域で人口減少が進み、農村部も居住地は限定されるが、より低密度に人口が分布すると推計されている。



令和2年(2010年)

令和27年(2045年)

出典：総務省統計局「国勢調査」(令和2年(2010年)) (<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>)、
 国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」(平成30年(2018年)推計)
 (<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/t-page.asp>) をもとに作成

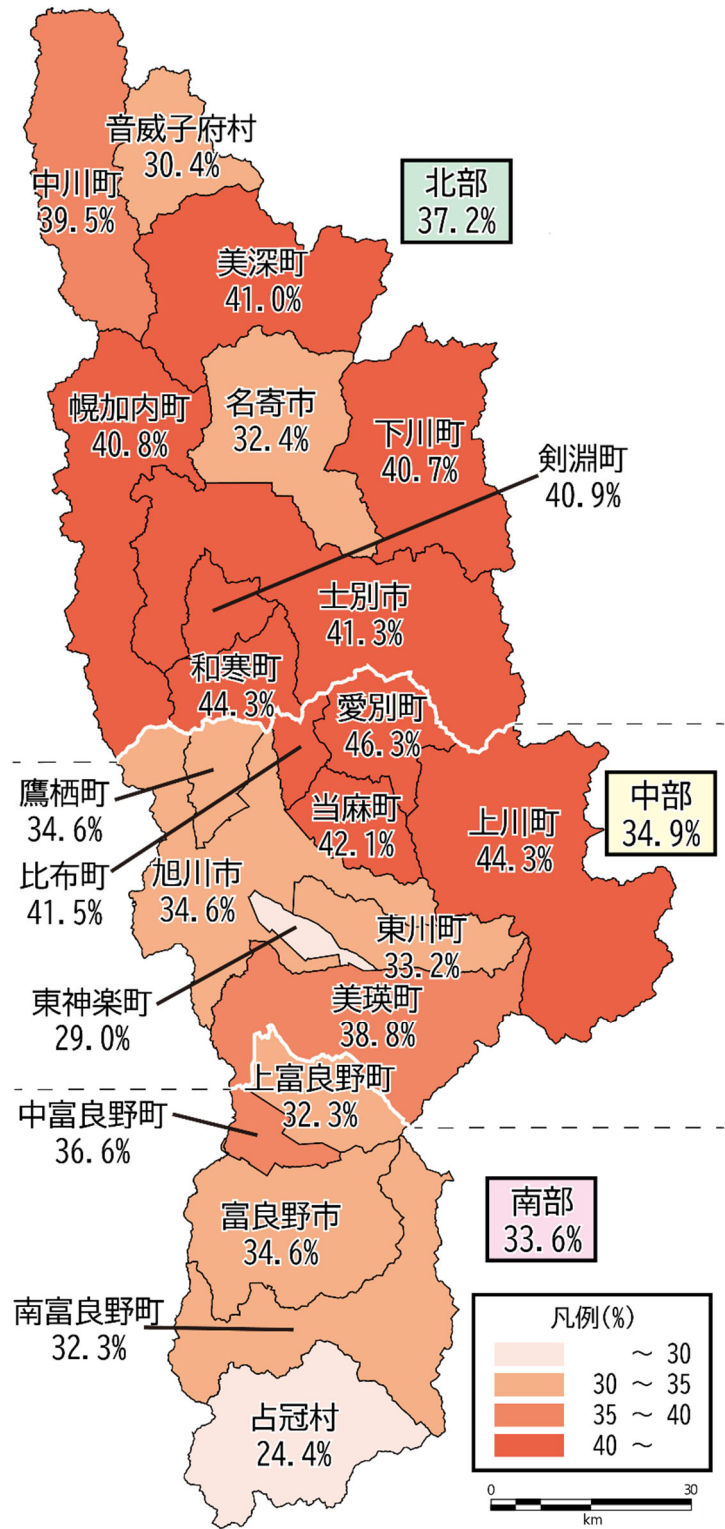
図 3-14 人口分布の推移(500m メッシュ人口)

⁴ 緯度・経度に基づき地域を隙間なく網の目(メッシュ)の区域に分けて、それぞれの区域に関する人口データを編成したもの

北海道上川地域公共交通計画

(3) 高齢化率の分布

各市町村の高齢化率(65歳以上人口の割合)は、東神楽町と占冠村で30%を下回っているが、中部、北部では40%を超える市町村もあり、高齢化社会の進行が深刻化している。

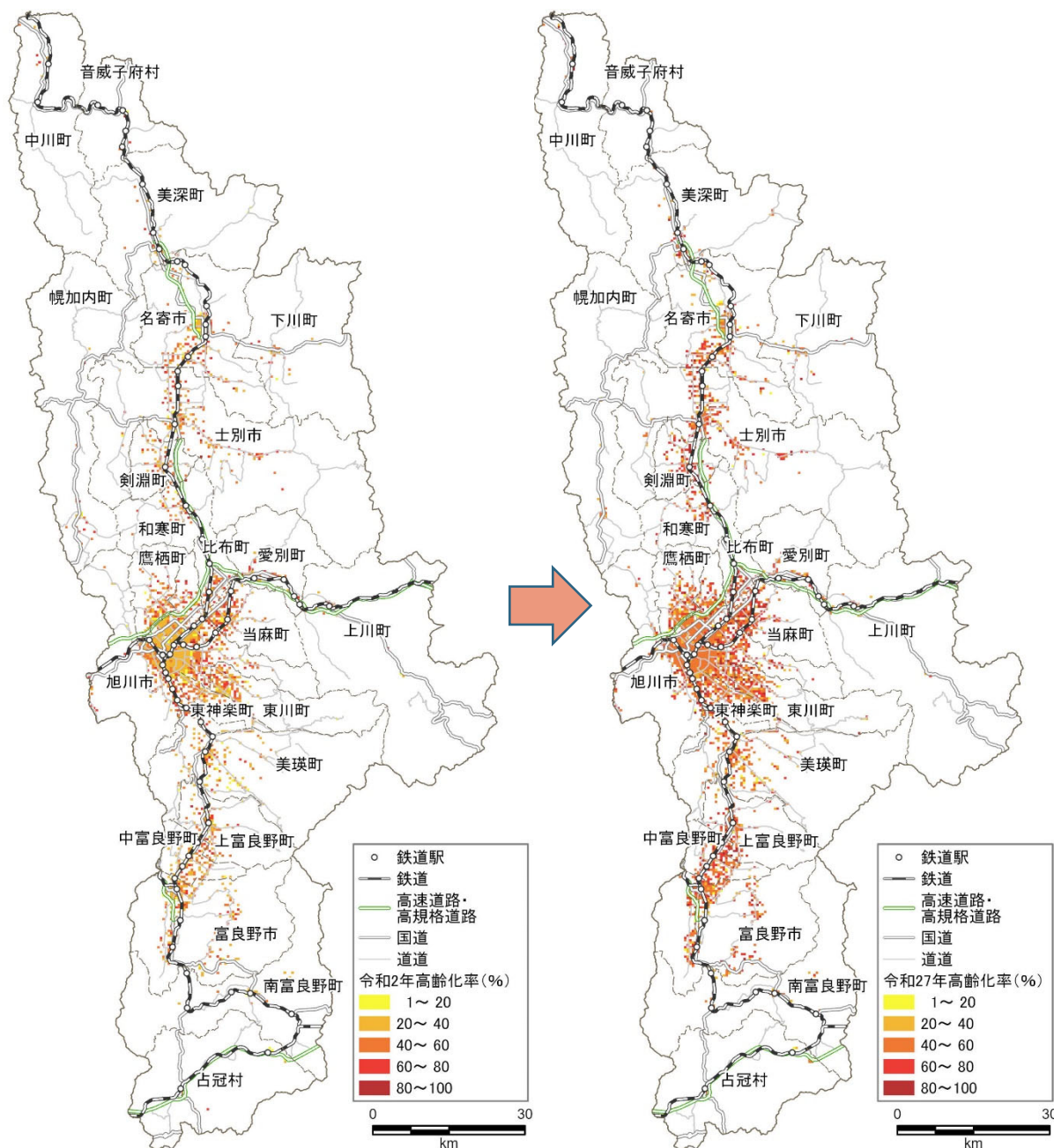


出典：総務省統計局「国勢調査」(令和2年(2020年)) (<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>) をもとに作成

図 3-15 地区・市町村毎の高齢化率

500m メッシュで高齢化率を見ると、市街地は比較的高齢化率が低く、郊外（特に農村部）の高齢化が進行している状況となっている。

また、令和 27 年(2045 年)には高齢化が地域全体で進行し、中核・地域中心都市の市街地においても、多くの地点で高齢化率が 40%を超える予測がされている。



令和 2 年(2020 年)

令和 27 年(2045 年)

出典：総務省統計局「国勢調査」(令和 2 年(2020 年)) (<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>)、
 国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」(平成 30 年(2018 年)推計)
 (<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/t-page.asp>) をもとに作成

図 3-16 高齢化率分布の推移(500m メッシュ人口)

